

令和4年度 社会教育委員 第2回会議

令和4年5月30日（月）

15：00～16：50

プラザおおるり第3多目的室

【出席者】

社会教育委員：田代保廣、萩原淑恵、大石絵美、鈴木美香、八木博、
熊谷紀男、西田正鋭
教育委員会社会教育課：清水社会教育課長、伊藤課長補佐兼社会教育係長

【会議の内容】

1 開会（事務局：伊藤）

- ・配布資料の確認を行った。

2 田代議長あいさつ

- ・今年はず1回ペースで会議を開催していくことになるが、全員が毎回集まることは難しい。できる範囲のなかでやっていきたい。
- ・5月23日の中部地区社会教育委員連絡協議会の総会で焼津市役所に足を運んだ。新庁舎は1階がシンプルな市役所らしからぬ作りで、会議室等が配置されていたが津波対策によるものだった。
- ・ときどき皆さんのところにも届く「社教情報」だが、県の会合時にある委員から“教典”だと、いつも勉強会をやっていると聞き、改めて読み直したが素晴らしいことが載っている。そのNo.85の中に、社会教育法第17条に「社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。」とあるので、教育委員会に出席して意見を述べたいといったところ、前例がないなどの理由により出席に数か月かかったある委員長の話が載っていた。法律に書いてあるのに順調にそれが進まないのか。不思議な世の中であり、ちょっとおかしいなと思った。
- ・「はつくら子ども食堂」で、絵本の読み聞かせと紙芝居を、所属するボランティアグループで行った。先月も行ったが最初ということもあり上手くいかなかった。今月は私も初めて、子どもと目を合わせ、反応をみながら声のトーンを上げ下げしてやってみた。良い経験をしたと思うし今後も続けていきたい。
- ・本日もよろしく申し上げます。

3 清水課長あいさつ

- ・私も「はつくら子ども食堂」に伺い、絵本の読み聞かせなどを見せていただいた。小学校の運動会と重なり、子どもの人数も多くはなかったが、子ども達も生き生きとして、ご飯食べて、絵本の読み聞かせを聞いて、紙芝居をみてと、満足して帰ったのではないかと思う。少し前までは、食事の

持ち帰りだったり、会自体が開けない状態だったりしたことを考えると、世の中も少しずつ元に戻りつつあるのかなと感じている。ただ、コロナが完全に無くなったわけではないので、今後、マスクの着用について緩くなることもあるが、引き続き感染対策に気をつけていただきながら過ごしていただければと思う。本日も活発なご議論をお願いします。

4 議題

(1)「島田市における公民館の今後の在り方について」の検討

・この活動は、しばらくは情報収集とその共有になると思う。

①公民館運営審議会にオブザーバーとして出席し現場確認

②この会議を公民館で開催し、実施している社会教育講座があれば、その様子をみる。(以上、田代議長)

前回の配布資料5などを伊藤が、「公民が集う公民館の再構築」の抜粋要約を田代議長が説明した。

○委員からの意見等

自由な意見交換として議論を行った。

- ・公民館運営審議会にオブザーバーとして出席させてもらっている。審議会委員は2年に1回、任期を終えると交代してしまうこともあり、公民館とは何かを検討、整理することもできないのではないかな。
 - ・地域協働活動推進員は、今年度からすべての市内各小中学校に配置されている。学校の先生が従来行っていた業務を推進員が行うことで学校の負担軽減等に繋げていこうというもの。例えば、授業の講師を探すことなど依頼する業務を先生に代わって行う。
 - ・コミュニティセンターになると教育委員会から市長部局に移管している例がある。それにより弊害があるという論文もあった。島田市の議論としてその部分はいいのかな。
 - ・私の利用している公民館では、年末の大掃除に貸館利用者だけ参加しているようだったので、社会教育講座受講者にも声をかけたらどうか公民館運営審議会の場で提案した。また、公民館の活動は現在でもしっかりやられていると思うが、集う場、気軽に人々が集う場としては機能しているか。用事がない人は来ていない。法律でもつばら営利を目的としてはならないとなっているが、全面的にしていないということだし、自販機もしくはカフェがあってもいいのではないかなという話をした。
 - ・今、金谷地区で建設しているものはいずれコミュニティセンターになるのか、民間が運営することになっているが、市の所管はどこか。
- 資産活用課が主となり、支所機能（市民課）、子育て機能、公民館などが一体となって管理運営を行っていくことになると思う。
- ・公民館は指定管理制度で民間が運営すると、資産活用課の説明も何度も聞いたが、民間が利益を上げないで運営して、一定数館が利用されたことを結果として、民間に市の財政が入ると聞いている。何度聞いてもよく判ら

ない。運営が成り立つのか、民間が入って利益を上げないで運営をする、公民館がこれまでと同様に活発に活動が行われるのか心配である。金谷宿大学の関係者も利用料が上がらないか心配している。夢づくり会館も指定管理になって利用料が上がった。金谷宿大学も受講料1回500円というボランティアのような形で活動しており、そこに利用料が上がってしまうとできないという人も出てくる。金谷宿大学が衰退していくことを心配している。納得いく、腑に落ちる説明がないまま、事業が進んでいる。コミュニティセンターになるメリットもいろいろ聞いてはいるが、コミュニティセンターがいいと言われていたときと、世の中の状況が変わってきている。社会的弱者も含めて支え合うという「社会的包摂」という話があるが、利用料が上がったら社会的弱者も支えていく考えは難しくなるのではないか。市がしっかり管理する公民館であったほうが、SDGsなどいろいろなことができいくのではないかと思う。初倉公民館も地域の子供達や高齢者も取りこみ、混ぜ合わせた形でいろいろなことに取り組んでいる。金谷公民館も夏祭りなどで各年代が交流し活動できており、先へ派生させて違うことへという流れを作るときも公民館であってもできるのではないか。コミュニティセンターでできることもあるが、営利目的も解釈が変わってきていることを考えると、公民館が上げた利益を地域に還元する形であれば営利目的でも問題にはならないのではないかと思う。何を話し合えばいいのかなという状態である。

- ・他の町の成功事例を着目している。長野県飯田市はまちづくり、公民館活動に成功している。東京大学教育学部も後追いをしている。成功の秘訣は、人形劇が伝統のまちであり、国際人形劇大会なども行われるくらい。住民たちが楽しむ、公民館が表にでないで後方支援しているだけ。また、異世代交流、若い人も高齢者も一緒にやっている。お互いによい影響を与え合い、共に学び合っている。このまちだけでなく他の地域とも連携している。これから公民館を考えていくうえで、参考になるのではないかと思っている。最近本も出版されており、「ムトス」というキャッチフレーズのまちづくりの本である。いろいろな活動をしている人達を毎年褒賞しており、如何に活性化していることの表れではないか。飯田のまちを着目している。
 - ・飯田市や上田市のことはよく聞くが、成り立ちに特徴があるのか。
- 歴史的な素地がある。住民意識のなかに刷新というものが強いのでは。
- ・飯田市は社会的土壌があるうえで、成り立っていると感じ取った。公民館の今後の在り方について、今、はっきりよく判らない。例えば、子供の性格、我々とは全然違う性格を若い人達が持ち始めているとか、学習態度も違うし、社会に対する参加意識も違う。この中で、公民館ということ捉え直しするのか判らなかった。退職してから町内会活動に参加するようになり、老人クラブに関わっている。老人クラブでイベントを提供しており、市老連の事業と包括ケア推進課の事業がある。似たようなものもあ

り、そこに参加する人はほとんど同じ顔触れである。初倉地域総合センターでいうと12,890人がサービス対象だと。学習拠点として期待している人口がどの程度いるか具体的な数字をある程度掴んでおく必要があるのでは。高齢者も最近〇〇さんは講演会に最近出て来ないと、なんで来ないのか、耳が聞きづらくなって出て来ないのか、そのような人口が増えてくる状況もある。数年経つと人口がだんだん減ってくるから、どれくらいのスパンで公民館活動を捉えていく必要があるか、対象となる人口構成、年齢階級がどれくらい変化していくかということと、どのようなことに興味をもっているか、例えば、学習拠点として学齢期の子供を対象にしているのか、それとも、それ以降の働いている人達を対象にしているのか区分けも考えていったほうがいいと思う。飯田と島田市の違いがあると思うが、例えば、自治会長が10歳ぐらい若い人に交代を頼んだら、みんなに断られてしまったと。私達世代が亡くなったら彼らはやるのかなと。地域に住んでいてサービスは受けるが自治会活動には参加したくない、今の若い人の典型である。お金がでないとやらない。公民館の事業、定期講座を開設することなどいくつかあるが、すべてできることはないだろう。すべて挙げてしまって現場に押し付けている印象。市として、どのようなサービス対象者があるのか、どのようなサービスを求めているのだろうか、公民館として提供可能なサービスはなんだろうかを私は知りたいと思っている。居場所ということがあるが、通常、集まってわいわいがやがやすることらしい。ただ、私の町内では場所ではなくイベント提供型になってしまった。これをやるからここに集まろうということになってしまった。居場所というのは、空間と時間を提供してあげれば良いと思うがなかなか難しい。公民館が突破口になるのかな。12890人を対象とする公民館が一つあるのはいいが、少ないか、どれだけ空間と時間を提供できるか。あと、切実に思っているのは、高齢者も小さい子も、“移動”することに問題が多いのではないか。前回の会議で聞いたところ、公民館の設置ではなくて、サービスのことについて検討してほしいということなので、サービス対象、予算、人員、サービス内容で今提供できるサービスは何だろうか考えざるを得ないと思っている。全体像がよく判っていない。先ほどの民間委託になったら、利用しづらくなったのでは誰も使わなくなってしまうのでなかなか難しい。財政上の問題とどこで折り合いをどこで付けるか、踏み込めていけたらいいかなと。答申として事実を理解した上でこのようにしたらいいのではないかと皆さんと一緒にまとめ上げていきたいと思っている。

- ・議論の視点として公民館だけの視点だけでは出来ないなと思う。例えば、初倉は公民館機能だけではない、横の繋がりを大事にしていく機能もあったなと思っている。正直、何課ということはどうでもいい話で、地域住民のためになっていければいいという視点はもっていた。運営がうまくいっている事例で、飯田市も視察に初倉公民館にきたぐらいで、非常に上手くいっていたと思う。細かな課題はいっぱいあると思うが、初倉まつりをや

るときには、初倉コミュニティと自治会と中学校が関わり、公民館と児童センターと縦も横の繋がりもできた行事だったと思う。すごく上手くいっている初倉でも、全国的にも課題となっていることだが、コミュニティ機能、自治的機能は低下しており、それを補完しているのが公民館だったなとすごく思う。使用料のこと、減免の話だが、すごく問題になったことがある。地域住民が心配したときがあつて、減免が利かなくなるのではないかと、市が貧しい市なのでお金が出せないのではないかと公民館に相談が来たことがあつた。一方で市の財政も気にしていかなければいけない。つまり持続可能な公民館活動ということも考えていかなければならないときに、そこも視点の一つに入れなければならない、理想論だけ言ってもなかなか回っていかないと感じる。包括的なところ、具体的にいうと初倉地区には初倉西部ふれあいセンターもあるが、個人の意見として必要性に疑問を感じる。あと、市の街なかに公民館がなぜないのか。それを補完しているのは公会堂。自治会で所有し、そこに事務を置いて公民館の役割をしているところがある。さらに拠点がある。その意義は何なのかというときに、初倉の取組みは大きなヒントになるのではと思う。でなければ、もっと細かなところで、施設をしっかりと市で財政を入れて充実させていけば、もしかしたら無くてもいいのかもしれないというところまで考えたりする。もう少し効率的な分配をしていく。初倉、六合、金谷だけあるというところも問題なのかもしれない。北部のほうも欲しいだろう。グローバルな視点で考えていくことがこの会議の役割なのかもしれないと感じた。

- 公会堂の役割は大きいと思う。公会堂で講座が提供されていることについても実態として、調べておく必要があるのではないかと。地域医療を支援する会も公会堂で年10回ほど講演会を開催している。いろいろな学習活動もあることも考察の一つとして入れておいたほうが良いと思う。
- 住んでいるところに公民館がないので馴染みがなく、そこからの勉強と感じている。答申を考えるときに、今の時代、箱物のことで考えてしまうと、すごく限定的になってしまい、閉じた話になってしまう怖さがある。公民館は、運営するのは人であり、利用するのも人なので、どのような心の通った運営だったらいいいのか、どのように利用してほしいか議論しないと意味がない、危険かなと思った。そうでないともったいない。公民館は皆さんが意見にあつたとおり、縦割りを超えて横の繋がりになって、ハブになっていくところが大事で、地域に開いていくときに公民館の中の活動のことだけみていくのではなく、どれだけ外の取組みとか活動とか拾うことで、関わっていけるかがすごく大事だと思った。公民館を利用している人の意見だけでなく、全く利用していない人たちの意見も取り上げる必要がある。3館だけでなく、島田市全体の中で、どのような公民館の在り方がいいか考えていければいいかなと思った。答申の作り方として、これからどのような話し合いをして、どのように視察にいて、どんな作業で答申を作っていくのか、委員の皆さんと共有できれば、もう少し判りやすく

なるのかなと思った。先ほど委員のおっしゃった先進事例を見たり、公民館だけを論じるのではなく各エリアの特色を探ったほうがいいのと、資料の「新時代の公民館をめぐるキーワード」の中で何か取り上げて考えることができたらいいと思った。

- ・初倉、六合、金谷は公民館やコミュニティがあって、県外からお嫁に来た私の友達は、非常に地域のことをよく知っていて、例えば、あの人はこれが得意だから文化祭に出品してもらおうとか、とてもよく判っていて、交流ができています。方や私は勤めていたこともあるが、地域のことは自分の周辺のことしか知らない。この違いは何だろうと考えると、昔からの土壌ということもあるかもしれないが、コミュニティとか公民館があるかどうかの違いかなと思っていて、市内のなかでも地域間格差は大きいなど。この公民館の答申と聞いたときに、家の近くにはないよと事務局に話したくらい、なぜ、3公民館なのかなと感じた。公民館や公会堂が大切だなと思うことは、そこを拠点とした人と人との繋がり、資料（「公民が集う公民館の再構築」の抜粋要約）にもある“PR力”、近くにいる人達との繋がりを築いていく場であり、空間であり、そのような役割を求められていくのではないかなと思っている。3世代、4世代が一つの家族であった昔と違って、単世帯の若い夫婦だけの住み方が多くなっているなかで、地域の人達との関係づくりをしていくのはとても大切なことだと思う。キーワードのなかで、社会的包摂、いろいろな方達を取りこんでいく機能が大切になると思っている。昨年の県の研修で、防災が中心の講演だったと思うが、心に残っていたのが、「何かあったら集まろうではだめですよ」と。日頃から関係づくりをして、それで防災の拠点機能が発揮されると、そういう意味においても、人をつなぐという拠点であるべきと思った。それには日頃から、講座やお祭り、文化祭などの形で世代を超えて、特に幼い子供達が公民館の体験をすることが大切だと思う。それが現状ではできていないのか、3つの公民館に課題があるのかどうかを私は知りたい。もし、施設を利用する意味で大きな課題がなくて、運営の方法を変えていけばその目的を達成するのであれば、そのところを明確にしていくべきだと思うし、3つの公民館で成功したことを公会堂、各地区に発信してほしい。私の地区にも自治会館があるので、居場所というか、みんなでワイワイできるようなことができてくるのでは。使用料が高くなって使えなくなってしまうのでは困るが、その辺りがはっきりさせることができればいいかなと思う。
- ・「社教情報No.85」では島根県の例も紹介されている。コミセンと公民館、コミセンは自主運営が主体で運営能力がある地域住民がいれば伸びると、人任せではだめだと。島根県で成功している事例は併設型だと、教育委員会も首長部局もかんでいる、自主的とはいいいながらトリガー、引き金が必要ではないかと思う。また、利用していない人が公民館をどのような見方をしているか。更に、ある会合で初倉地区の私は初倉公民館を利用できる

が、街なかの委員は、会場にお金を払って会合を開いていることもあるらしい。地域間格差を感じる。交流とか居場所、目的、講座があつていくのは立派だが、講座がなくても行ける場所はないのかな。

- ・公民館運営審議会に都合のつく方は出席をしてもらい、何をやっているかみてほしい。

(2) 7月11日開催志太地区研修会 各市活動紹介について

- ・焼津市で開催する。各市で委員が活動する内容を紹介する。
- ・西田委員が活動されている「学習サポート事業」について紹介してもらうことになった。

(3) 「家庭教育の在り方について」に係る啓発・広報活動について

- ・私の地区の学校に話をしているが動きが鈍い。教育長から校長会に話をしてもらえるよう課長にお願いしている。教育長はパワーポイントの資料などはみてくれていないと思うので、それを紹介しながら事務局で説明をお願いしたいと思う。
- ・萩原副議長の働きかけにより、10月7日に、大津小の家庭教育学級で説明する機会をいただけることになった。
- ・八木委員からの提案で、この啓発、広報活動の一環として、FM島田へ出演し説明することについて、進めていくことについて賛同を得た。今後、出演委員などは、FM島田とのやり取りの中で決めていく。
- ・6月24日主任児童委員に対して田代議長が説明する。

10 その他

○清水課長から

金谷公民館に係るPFI事業について説明させていただくと、旧庁舎があった土地を活かして、そこに民間資本によって核となる建物を整備し、支所、子育て機能、民間のお店なども入る予定である。周辺の公園、体育センター、公民館も組み込まれて地域一体として民間のアイデアや財力などにより地域をより活性化していきたいという基本の事業であると聞いている。大前提として公民館機能を落とさないこと、最低限必要なことであると、いろいろな会議で説明してきたところである。窓口の資産活用課と受託業者も含めて検討しているところで、今ある公民館機能、いろいろな自主事業を行っているので、その引継ぎも含めて調整を進めている。今後、この場で説明できることがあれば説明させていただく。また、これについてご意見があれば伺いたい。

○焼津市の公民館利用基準見直しの記事について

- ・記事に「公民館では現在認められていない民間企業や個人の活動などの基準の見直しを図り、利用できるよう検討する。…」とあるが、島田市の現状はどうか。

→当市は、公民館として、民間企業や個人の活動などにはできないように現在なっており、そのことも含めて今後、検討していただきたいと思う。

○公民館運営審議会の日程について

六合・・・6月30日（木）午後3時～

初倉・・・7月8日（金）午前10時～

金谷・・・調整中

参加できる方について、事務局へ連絡いただくことになった。

11 閉会

萩原副議長から閉会あいさつ

- ・娘夫婦が引っ越してきて、2歳の孫と一緒にいることが多くなった。島田ゆめ・みらいパークが大好きで、今日も暑い中行ってきたみたいである。また、図書館で絵本を借りるのも大好きで、私もときどき行くが、利用している人数が少なく、こんなに良い施設なのにと感じた。市として、集いの施設、場を作ってくれているが、そこをどのように人を集めていくか、これからの話し合いの一つの視点になるのではないか。今日は皆さんのいろいろな意見を聞いて良かった。次回も楽しみにしています。ありがとうございました。